



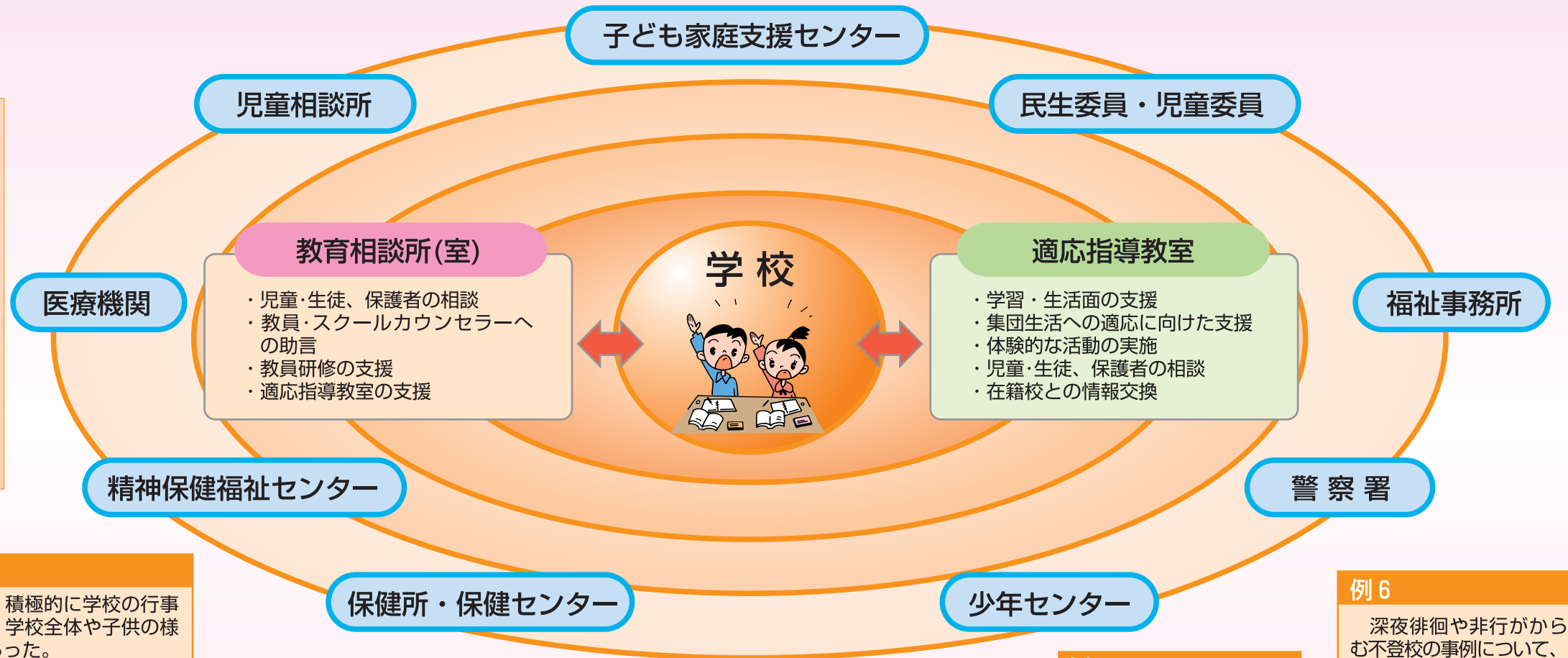
# 関係機関と連携し、不登校対応地域ネットワークをつくりましょう



不登校の要因や背景は多様化、複雑化しています。そのため不登校の児童・生徒が必要としている支援が、学校だけでは難しい場合があります。一方、関係機関の適切な連携により、学校復帰に至った児童・生徒もいます。学校と地域の関係機関がネットワークを構築して、不登校児童・生徒一人一人にきめ細かく対応していくことにより、適切な支援の可能性が広がっていきます。

## 関係機関とのネットワークづくりのポイント

- 1 地域にある関係機関の名称と所在地を調べる。
- 2 関係機関の専門分野を一覧表にして、校内に掲示する。
- 3 関係機関の窓口となる教員を決める。
- 4 管理職や担当者が、各機関を訪問し、どのような機能があるか確認する。
- 5 校内の教員に、関係機関の機能と連携の仕方について周知する。



各機関との連携には、いろいろなパターンが考えられます。

### 例 1

関係機関に、積極的に学校の行事等を知らせて、学校全体や子供の様子を知ってもらった。

### 例 2

子供の理解と対応の校内研修会に、教育相談所(室)の相談員を講師として招いた。

### 例 3

保護者から「子供が落ち着かず、どうしていいかわからない」という相談があったので、教育相談所(室)と連絡を取り、来所相談につなげた。

### 例 4

適応指導教室に通室している生徒がいるので、教員が月に1回は適応指導教室を訪問し、指導員と情報交換した。

### 例 5

不登校の要因が家庭内の問題に関係がありそうなので、子ども家庭支援センターと連携して、福祉の面での対応をお願いした。

### 例 6

深夜徘徊や非行がからむ不登校の事例について、生活指導主任が警察に行き、対応方法の助言をもらった。

## (参考) 不登校対応連絡協議会

参加者：教育委員会、教育相談所(室)、適応指導教室、関係機関等の代表者、学校(管理職・不登校対応教員等)

目的：不登校対応地域ネットワーク内での連携を円滑にするために、定期的に関係者が情報交換を行い、共通理解の下、各機関の役割分担を確認する。

内容：教育委員会からの方針説明・不登校等状況報告、各機関の情報交換、事例検討、対応の協議等

開催時期：年度当初・夏季休業日明け・学年末等、学期に1回程度、定期的で開催するとよい。

※中学校区ごと等、近隣地域で開催する方法もある。

## 関係機関とネットワークを構築することのメリット

### ○多角的な支援

学校だけの対応ではなく、関係機関の機能を生かすことにより、多角的な支援につなげることができる。

### ○迅速かつ的確な対応

学校と関係機関の役割をあらかじめ確認し、日常的な情報交換により、迅速に、的確に対応できる。

### ○サポートチームの編成

学校と関係機関とが連携し、個々のケースに応じてサポートチームを編成して対応することができる。

### ○未然防止、早期発見・早期対応

対応事例を集約し、関係機関で共有することにより、その後の不登校対応に生かすことができる。